



ヨブ記

シリーズ～旧約聖書入門～

2012/8/26

ヨブ記について

• 知恵文学

- 旧約聖書: ヨブ記, 詩篇の一部, 箴言, コヘレトの言葉
- 旧約外典: ベンシラの知恵, ソロモンの知恵, トビト書他

• 著作背景

- 著者, 著作年代は不明(モーセの時代～捕囚期後)

• 特徴

- プロローグ(1～2章)とエピローグ(42章)は散文体。
それ以外は詩文体。全体としては『**せりふ劇**』風
- 一人の人(ヨブ)の信仰的経験をテーマにしている

ヨブ記の構成

• プロローグ(1～2章)

- ヨブの紹介;「無垢な正しい人で,神を畏れ…」
- 襲いかかった試練①;全財産と子ども全員を失う
- 襲いかかった試練②;全身を覆うひどい皮膚病
 - いずれもサタンの進言により主が許可されたが,ヨブは不平を言わず,受け入れた

• ヨブと三人の友だちの対話(3～31章)

- エリファズ・ビルダド・ツォファル
- エリフの言葉(32～37章)
- 主なる神の言葉(38～41章)
- エピローグ(42章)

ヨブと三人の友だちの対話(3～31章)

- ヨブを襲った不幸を聞きつけ,かけつけた友人
 - 「ヨブにふりかかった災難の一部始終を聞くと、見舞い慰めようと相談して、それぞれの国からやって来た」
- ヨブの嘆き
 - ヨブは生きていることを嘆き,生まれた日を呪った
- 友人はヨブに悔い改めを求めた
 - 「考えてみなさい。罪のない人が滅ぼされ／正しい人が絶たれたことがあるかどうか。」＜エリファズ 4:7＞
- ヨブは受け入れなかった
 - 「考え直してくれ／不正があってはならない。考え直してくれ／わたしの正しさが懸っているのだ。」6:29

対話①(3～31章)

友 人		ヨ ブ	
		独り言	3章
エリファズ①	4～5章	こたえ①	6～7章
ビルダデ①	8章	こたえ②	9～10章
ツォファル①	11章	こたえ③	12～14章
エリファズ②	15章	こたえ④	16～17章
ビルダデ②	18章	こたえ⑤	19章
ツォファル②	20章	こたえ⑥	21章
エリファズ③	22章	こたえ⑦	23～24章
ビルダデ③	25章	こたえ⑧	26～27章
		独り言	28～31章

ヨブの変化

- 友だちの主張(因果応報)
 - ヨブの不幸の原因は彼自身の隠れた罪にある,と主張
- ヨブの応答(終わらない苦しみと追求によって)
 - 神の扱いは不当である
 - 「わたしが正しいと主張しているのに／口をもって背いたことにされる。無垢なのに、曲がった者とされる。」9:20
 - 神は自らを隠しておられる
 - 「なぜ、あなたは御顔を隠し／わたしを敵と見なされるのですか。」13:24
- ヨブ自身は潔白である(→神が間違っている)
 - 「わたしは自らの正しさに固執して譲らない。一日たりとも心に恥じるところはない。」27:6

エリフの言葉(32～37章)

- 神と争うことの間違い

- 「ここにあなたの過ちがある、と言おう。神は人間よりも強くいます。**なぜ、あなたは神と争おうとするのか。**神はそのなさることを／いちいち説明されない。」33:12-13

- 神は隠れておられない

- 「あなたは神を見ることができないと言うが／**あなたの訴えは御前にある。**あなたは神を待つべきなのだ。」

- 神を被告席に立たせてはならない

- 「誰が神の道を見張り／『あなたのすることは悪い』と言えようか。」23

主なる神の言葉(38～41章)

- 創造主に立ち向かう愚かさ

- 「わたしが大地を据えたとき／お前はどこにいたのか。知っていたというなら／理解していることを言ってみよ。」38:4

- 知恵・分別を与えるのは神である

- 「誰が鶉(とき)に知恵を授け／誰が雄鶏(おんどり)に分別を与えたのか。」38:36

- 神を有罪にするな

- 「お前はわたしが定めたことを否定し／自分を無罪とするために／わたしを有罪とさえするのか。」40:8

ヨブの悔い改めと回復(42章)

- 神に逆らったことを認めた
 - 「あなたは全能であり／御旨の成就を妨げることはできないと悟りました。」
- 被造物と創造主の絶対的な違いを認めた
 - 「わたしには理解できず、わたしの知識を超えた／驚くべき御業をあげつらっておりました。」
- 自らの過ちを認め、悔い改めた
 - 「あなたのことを、耳にしてはおりました。しかし今、この目であなたを仰ぎ見ます。それゆえ、わたしは塵と灰の上に伏し／自分を退け、悔い改めます。」

ヨブ記のメッセージ

- 義人（神の前に正しく歩む人）であっても不幸に見舞われることがある
 - 「因果応報」ではない！
 - 「祝福と呪いのルール」に支配されてはならない
- 理由のない試練はない
 - 今、その理由が分からないだけである
- 主なる神の絶対的な主権を認める
 - 人間はごくごく限られた知恵をいただいている被造物に過ぎないことを忘れてはならない
 - 分からないことや理解できないことがあって当然である